

新しい社会科教科書に込めた願い

帝国書院編集部

●育成したいと願う生徒像

このたびの新しい社会科教科書の編集にあたり、私たちは、「公民的資質の基礎を養う」という社会科の目標に照らして、生徒たちに、次のように育ってほしいという願いを込めました。それは、家族や地域そして国際社会にいたるまで、さまざまな関りのなかで、自分たちは、常に「社会のなかの一員」という存在であることを知り、周囲のさまざまな人々に対して「共感」できる感性と、「ともに生きていく」姿勢をもってほしいということです。

くわえて、社会のなかで生きる自分たちは、けっして社会の傍観者ではないこと、自らが社会の一員であることを認識し、主体的に考え、意志決定し、行動していくことが大切であることを理解してほしいと考えます。このような願いを込めて、私たちは、社会科教科書に共通する、下記のような方針を立て、教科書づくりを進めてきました。

●人々の姿を生き生きと描く

人々がそれぞれの地域や時代のなかで、それぞれに努力と工夫を重ねた姿、それを通して何かを成し遂げた事例を、生き生きと描き出すことに努めました。

実感と共感をもってこれらの人々の姿を見ることを通して、生徒自らが生きる指針を見出してほしいと考えています。さらには、社会の諸事象が、けっして他人ごとではなく、自らと関わっていること、自らも社会の一員として役割をはたすことの大切さを理解してほしいと考えています。

●多面的に見て、多角的に考える

社会科の学習においては、生きた知識・理解が大切であると考えています。そのために、単なる

知識の暗記に陥らないように、具体的な事例をふんだんに示し、それを通して、生徒が考え、学び、生きた知識を身につけられるように心がけました。

その際、社会の諸事象には、さまざまな側面があり、多面的に見て、多角的に考えることが重要であると考えます。そのため、生徒が一つの社会的事象に対して、一方的な見方に終わることのないよう、題材の選び方、示し方を十分に吟味しました。

●関心をもって自ら学ぶ

「なぜなんだろう」という疑問をもち、それを解決していこうという姿勢、「自分ならこう考える、こうしたい」と考える態度を養うことが大切であると考えています。そのために、生徒自らが主体的に調べたり、考えたりしながら学べる場面を多くしました。

このような学習で得た、ものの見方、調べ方や学び方は、社会科の学習で得た知識とともに、これからの生徒の生活にも役に立つものであると考えています。

●これからの社会をになう生徒のために

このたびの教科書は、これからの時代をより発展させていく役割をになう生徒のために願って編集されました。

公民的分野では、現代社会の動きを生き生きと示した事例を豊富に掲載しました。これを通して、公民で学ぶことが自らと関わることであることを実感し、自ら考え、判断し、行動に結びつけることができるようになってほしいと考えています。私たちは、新しい時代をになう生徒たちが、よりよい社会づくりのために活躍されんことを願ってやみません。